

もんじょ紹介 No.28

2023「須坂に残る戦時資料」展

国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』



(蜂谷清画)

須坂市文書館

2023「須坂に残る戦時資料」展 －国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』－

一昨年、昨年に続き、「須坂に残る戦時資料」－国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』－の展示を行います。

当文書館が所蔵する史資料の中には、牧幸一郎氏から寄贈いただいた国策宣伝(プロパガンダ)ポスター類が56点、および神林公明氏旧蔵の『寫眞週報』が全212冊あります。いずれも、日中戦争からアジア太平洋戦争時の国策宣伝のようすや銃後の国民生活の姿を伝えるたいへん貴重なものです。

ポスター類と『寫眞週報』では、関連するものが多く見られます。たとえば、支那事変国債(鉄に戦闘帽)の図柄と、『寫眞週報』の裏表紙の図柄はまったく同じものです。そうしたポスター類と関連する『寫眞週報』を取り上げてみました。

また今回は、神林公明氏旧蔵の『寫眞週報』に加えて、須坂市立博物館所蔵(北村仁氏旧蔵)の『寫眞週報』(第315号、昭和19年3月29日付)以降55冊の中から、食糧増産についての6点を展示します。

なお、昭和16年5月の「輝く海軍記念日(水兵)」(蜂谷清画)のポスターは全国的にも重要な1枚になります。

<展示内容>

I 国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』

国債・貯蓄運動	ポスター6点
	関連『寫眞週報』6点
陸軍記念日ほか	ポスター3点
	関連『寫眞週報』5点
海軍記念日	ポスター1点
	関連『寫眞週報』2点
航空日	ポスター3点
	関連『寫眞週報』3点
博覧会・観光祭	ポスター5点

II 『寫眞週報』

日独伊三国同盟	『寫眞週報』2点
	関連書籍3冊
長野県関係	『寫眞週報』9点
	関連書籍2冊
食糧増産関連	『寫眞週報』6点

会 期：2023年7月20日(木)～9月24日(日)

会期中は土・日曜日、祝日も開館

会 場：須坂市文書館1階展示室(旧上高井郡役所内)

開館時間：午前9時～午後5時

I 国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』

1 国債・貯蓄運動

昭和 15 年の貯蓄目標額は 120 億円と決まった。戦費を生み出すために必要であると呼びかける。ハンマーを握りしめる手が工業を、働く男が農業を表している。



百二十億 貯蓄達成運動(ハンマーと働く男)

大藏省・道府県
昭和 15 年 12 月
H765 mm × W520 mm



寫眞週報第 147 号

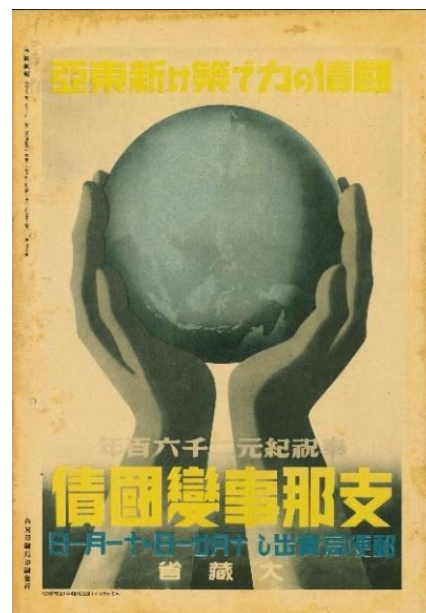
昭和 15 年 12 月 11 日発行

両手で地球を持つこの図柄は、懸賞ポスターの入選作品である。

ルソン島を中心にして、満州・朝鮮・中国から東南アジアの各国、さらにニューギニアやオーストラリアの一部も描く。

国債の力で築け新東亞
支那事変国債(地球儀)

大蔵省
昭和15年10月
H760 mm×W530 mm



寫眞週報第137号
昭和15年10月9日発行



支那事变 貯蓄債券・報國債券 (軍艦砲撃)

大蔵省・日本勧業銀行／昭和 16 年 2 月
H900 mm × W615 mm

戦艦の砲撃場面を切り取ったもので海軍力増強のためには国債購入が不可欠の意味合いがある。対英米開戦には慎重だった帝国海軍も新艦建造には熱心だった。

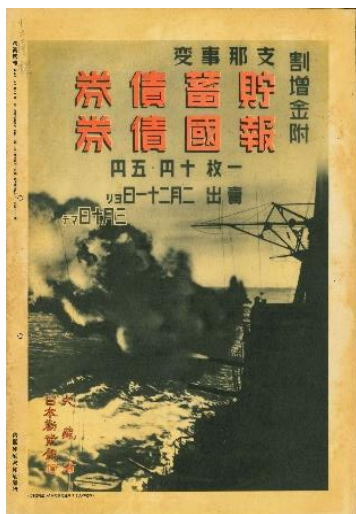


此の一弾此の一枚!

支那事变国債 (投下爆弾)

大蔵省・逓信省／昭和 16 年 12 月
H730 mm × W525 mm

昭和 16 年 12 月 8 日のアジア太平洋戦争の開始以前に作成されたポスターのため、標記は「支那事变国債」のままになっている。投下爆弾を中心に 3 機の爆撃機を描く。



寫真週報第 156 号
昭和 16 年 2 月 19 日発行



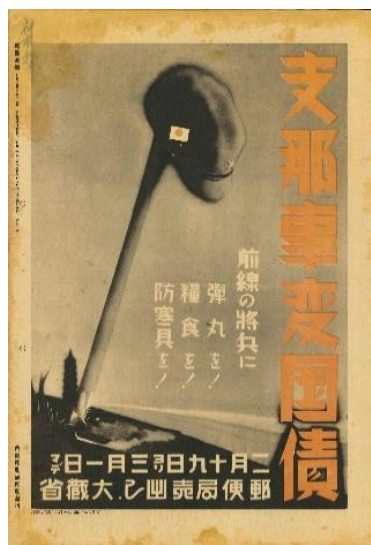
寫真週報第 197 号
昭和 16 年 12 月 3 日発行



支那事变国債(鉢に戦闘帽)

大蔵省／昭和 15 年 2 月
H540 mm × W370 mm

当館が所蔵する国債関連ポスターでは一番古いもの（昭和 15 年 2 月）である。日中戦争開始から 2 年半、寫眞週報では「前線の将兵に弾丸を！糧食を！防寒具を！」の文言が並ぶ。



寫眞週報第 103 号

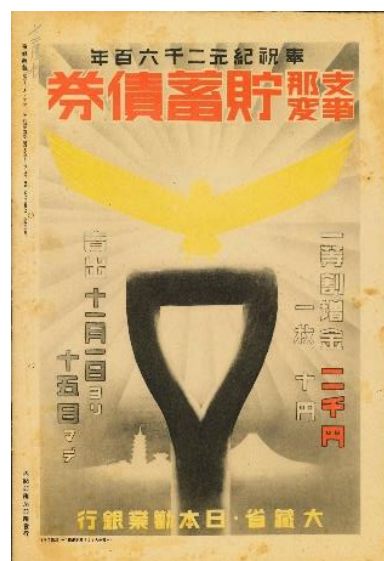
昭和 15 年 2 月 14 日発行



支那事变貯蓄債券(金鷄にスコップの柄)

大蔵省・日本勧業銀行／昭和 15 年 11 月
H585 mm × W370 mm

金鷄は神武天皇東征の時に弓の先にとまって勝利に導いたという故事に由来する金の鷄で、宮城（皇居）や錦の御旗・靖国神社の鳥居などとともにさかんに図案化されている。



寫眞週報第 140 号

昭和 15 年 10 月 30 日発行

2 陸軍記念日ほか

昭和12年7月7日、北平（現北京）郊外の蘆溝橋で演習中の日本軍と、この地に駐屯していた中国軍との間で発砲事件が起こり、これを機に日本軍は本格的に華北への軍事作戦を始めた。日中戦争（北支事変と称する）の始まり。毎年行われた陸軍記念日の中でも5年目ごとの節目にあたる昭和15年は特別に日露戦争の勝利を回顧する色彩が強まり、満州事変後は直近の戦果を強調するものとなった。



聖戦四年 七月七日(戦車、藤田嗣治画)

昭和16年7月
H835 mm×W600 mm



写真週報第175号
(支那事変四周年第一特輯)
昭和16年7月2日発行



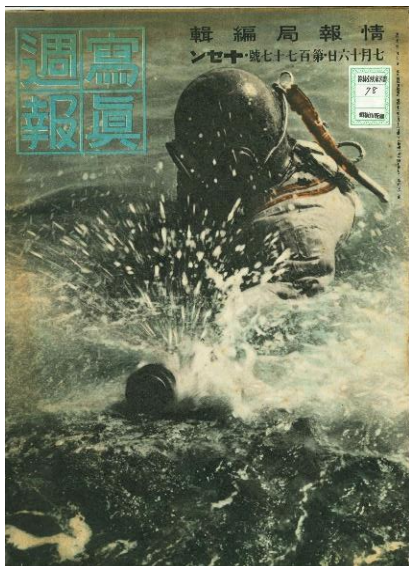
写真週報第176号
(支那事変四周年第二特輯)
昭和16年7月9日発行



第三十六回陸軍記念日 三月十日（戦闘員）
 昭和 16 年 3 月 10 日
 H900 mm × W610 mm

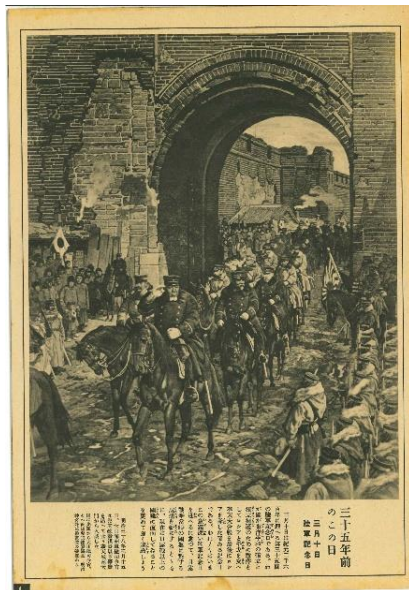


第三十七回陸軍記念日 三月十日（戦車）
 昭和 17 年 3 月 10 日
 H830 mm × W600 mm



寫眞週報第 177 号
 （支那事変四周年第三特輯）
 昭和 16 年 7 月 16 日発行

寫眞週報第 106 号
 （第三十五回陸軍記念日）
 昭和 15 年 3 月 6 日発行



寫眞週報第 262 号
 （第三十八回陸軍記念日）
 昭和 18 年 3 月 10 日発行

3 海軍記念日

日露戦争、明治 38 年 5 月 27 日の日本海海戦において東郷平八郎が率いる日本海軍連合艦隊がロシアのバルチック艦隊に勝利した日を記念し、翌 39 年に制定。

昭和 11 年、海軍軍縮条約から脱退すると、急速に大型戦艦の建造に着手した。
日中戦争開始以後は、重慶爆撃などの大陸作戦に関与していき、海軍記念日も盛大化していく。

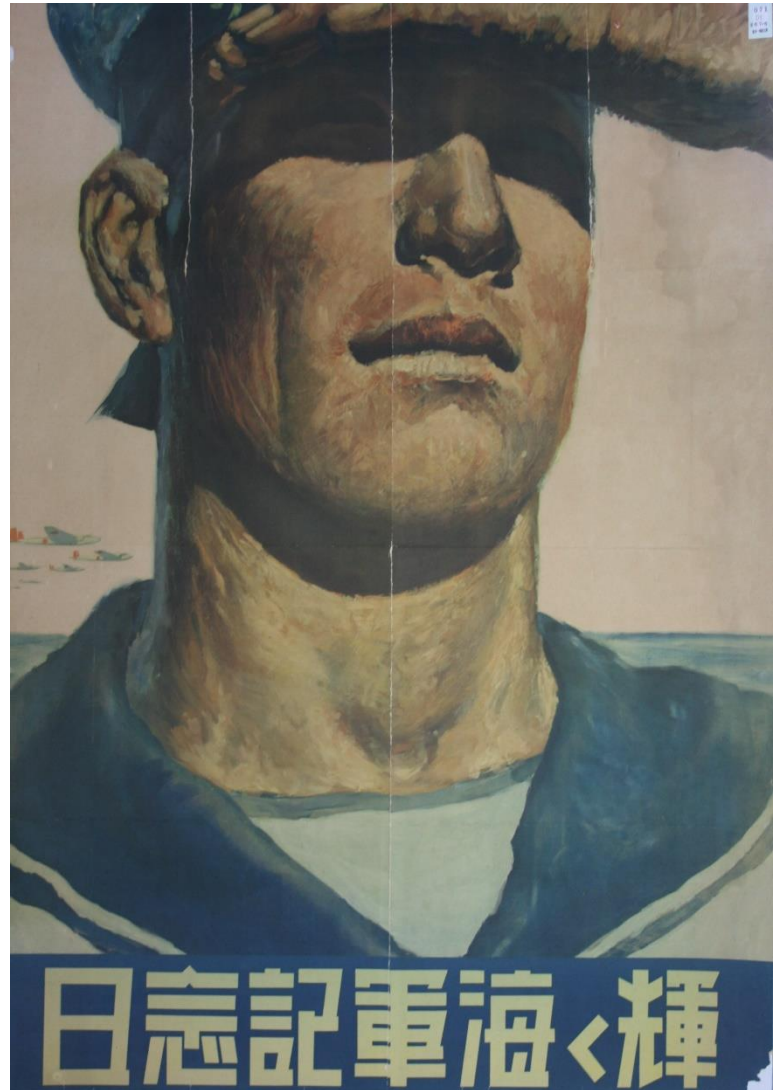
蜂谷清（昭和 20 年 7 月フィリピンにて戦死）作画、上田市の「無言館」には戦没画学生作品として別の絵画が展示されている。

輝く海軍記念日
(水兵・蜂谷清画)
昭和 16 年 5 月 27 日
H1000 mm × W740 mm



寫真週報第 169 号
(第三十六回海軍記念日)

昭和 16 年 5 月 20 日発行



寫真週報第 322 号
(第三十九回海軍記念日)

昭和 19 年 5 月 24 日発行

4 航空日

第1回の航空日は昭和15年9月28日と制定されたが、翌年からは9月20日と決定された。戦局の拡大とともに航空機の重要性が認識されるようになると、海軍も陸軍もパイロット（操縦兵）の募集を大々的に行うようになる。

航空日 空だ男のゆくところ (グライダー)

昭和15年9月28日
H775 mm × W525 mm



寫真週報第135号
(第一回航空日)
昭和15年9月25日発行

空だ男のゆところ

九月二十日は航空日

空飛ぶ夢を見たことがあるでせう。飛行機で飛ぶことは夢よりもっと爽快です。青く澄み切った大空に銀翼を旭光に輝かせ、生れてから一度も離れたことのない地球から離れることは、ただそれだけでも本當に愉快なことです。この大空に生き、この大空に戦ふことこそ日本男子の本懐です。鯉幟りも五月の大空に泳がせるではありませんか。空を拓かう！空を護らう！さあ!!!空へゆかう！

四回航空日



九月二十日は航空日 空だ男のゆところ
(模型飛行機、藤田嗣治画)

昭和 16 年 9 月 20 日
H770 mm × W1090 mm



写真週報第 186 号
(第二回航空日)
昭和 16 年 9 月 17 日発行



写真週報第 238 号
(第三回航空日)
昭和 17 年 9 月 16 日発行



第三回航空日 九月廿日 (重爆撃機)

昭和 17 年 9 月 20 日
H730 mm × W510 mm

5 博覧会・観光祭



長野市制四十周年市祭・観光祭・商工祭

昭和13年5月10日

H765 mm × W545 mm



新潟開港七十周年記念
日本海大博覧会

昭和13年4月20日

H1060 mm × W780 mm



全日本産業観光甲府大博覧会

昭和13年3月25日

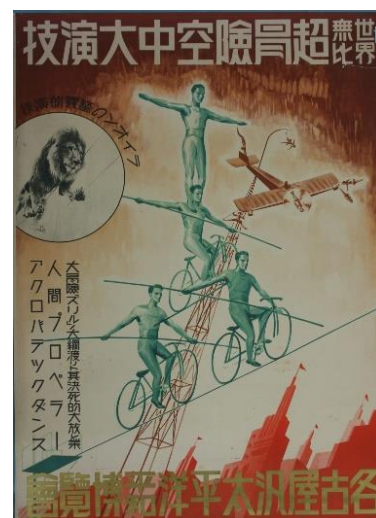
H1045 mm × W760 mm



東北振興大博覧会

昭和13年4月10日

H1060 mm × W765 mm



世界無比超冒険空中大演技

昭和12年4月1日

H1055 mm × W765 mm

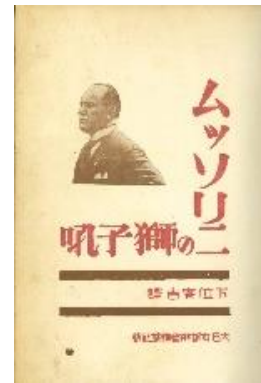
II 寫眞週報

1 日独伊三国同盟



寫眞週報第 137 号
昭和 15 年 10 月 9 日発行

昭和 15 年 9 月 27 日、「日本国、独逸及伊太利国間三国條約」がベルリンで調印される。即日発効、10 年間有効。10 月 21 日官報にて公布。



『ムツソリニの獅子吼』 下位春吉 著



寫眞週報第 165 号
昭和 16 年 4 月 23 日発行

ヒトラーとともに松岡洋右外相。この後ドイツからソ連へ向かう。



『ヒトラーとヒトラー運動』
室伏高信 著



『ナチス獨逸の議會改革』
安武納 訳

2 長野県関係

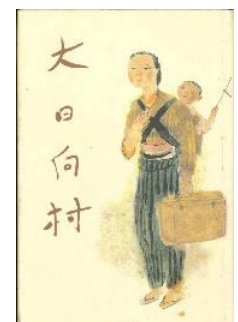


寫眞週報第 112 号
昭和 15 年 4 月 17 日発行

西筑摩郡読書村（現南木曾町）の大陸開拓団員 180 名とその家族 800 名は、4 月 1 日長野駅に到着し、善光寺に参詣した。翌 2 日には大陸へと旅立った。



『開拓』
—義勇軍特輯號—
滿洲移住協會

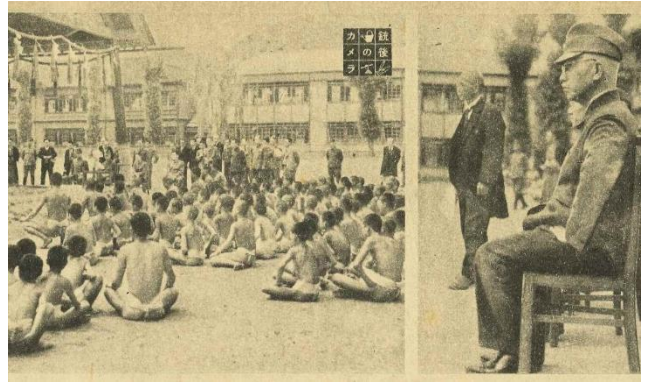


小説『大日向村』
和田傳 著



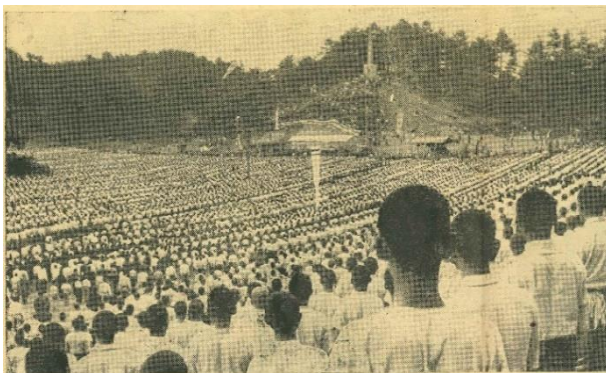
寫眞週報第 133 号 昭和 15 年 9 月 11 日発行

埴科郡寺尾小学校（現長野市松代町）での兎飼育の様子。兎の毛皮は防寒具の材料に、癖のない肉は食用として軍用に供された。最大飼育数は約 200 羽といわれる。



寫眞週報第 231 号 昭和 17 年 7 月 29 日発行

長野市後町国民学校の相撲は 10 年の歴史を持つ。橋田文部大臣が学校を訪問し、相撲の演練をはじめ相撲体操基本型などの少国民練成の様子を視察した。



寫眞週報第 275 号 昭和 18 年 6 月 9 日発行

第 38 回海軍記念日（昭和 18 年 5 月 27 日）に行われた大運動会。明治 39 年東郷平八郎が小諸を訪問した記念として始まり、38 年間北佐久郡の学校連合運動会が御牧ヶ原運動場で行われてきた。現在も運動場跡近くに「八紘一字の塔」が残る。



寫眞週報第 282 号 昭和 18 年 7 月 28 日発行

昭和 17 年 4 月、製糸統制による軍需優先の政策に合わせて須坂の製糸工場は通信機器工場に転換された。写真は〇〇工場とあるが、富士通信機須坂工場である。製糸工女たちはそのまま通信機製造に従事し、国策宣伝に利用された。



寫眞週報第 292 号 昭和 18 年 10 月 13 日発行

内地にはまだ開発されていない幾多の地下資源が眠っていると、重要鉱物発見に挙国的な態勢を整え学校生徒らを動員した。下高井産のヂアスポール（ダイアスポア＝耐火煉瓦材料）、北安曇産の無煙炭などが発掘された。



寫眞週報第 304 号 昭和 19 年 1 月 12 日発行

小県郡富士山村（現上田市）の用水路新設改良工事、溜池新設改良工事に近隣の全村民が動員された。塩田国民学校の勤労奉仕隊による客土工事が行われ、この土地改良が 300 万石増産につながるという。



寫眞週報第 157 号
昭和 16 年 2 月 26 日発行

分村移民のさきがけとなった南佐久郡大日向村(現佐久穂町)は、小説や映画にも取り上げられた。満洲四家房に入植(昭和 13 年 2 月)、3 周年を迎えた村のようすを伝える。



寫眞週報第 265 号
昭和 18 年 3 月 31 日発行

日赤長野支部の救護看護婦たちは、従軍に備えて裾花川で難路運搬の猛訓練を行った。日赤長野支部では、昭和 7 年 3 月 8 日の臨時救護班 27 名の編成派遣以来、救護班を 36 班 790 名にわたって戦地へ派遣した。うち、医員・書記・看護婦計 32 名が殉職した。

3 食糧増産



寫眞週報第 324 号
昭和 19 年 6 月 7 日発行

戦いの基だ
この早苗
そだてみのれと
ねんじて植える



寫眞週報第 336 号
昭和 19 年 8 月 30 日発行

播かぬ種は生えぬ
箱作りの茄子も
道端のトマトも
垣根の南瓜も



寫眞週報第 340 号
昭和 19 年 9 月 27 日発行

瑞穂の国に秋が来た
農家の苦勞が見事稔った
国の恵みを想おう



寫眞週報第 350 号
昭和 19 年 12 月 6 日発行

戦争第四年
決戦の頂点には
大東亜戦争の必勝と
大東亜の開放がある



寫眞週報
第 364・365 合併号
昭和 20 年 3 月 28 日発行

のこらず耕せ
くまなく蒔け
皇土こぞりて勝利の糧
の母たらん



寫眞週報第 372 号
昭和 20 年 6 月 11 日発行

食糧増産に全力を挙げよう
食糧は戦いの原動力です

年表

昭和年	西暦	月日	主な出来事
12	1937	7.7	日中戦争始まる
		8.17	県内初めて防空演習実施
13	1938	1	満州開拓青少年義勇軍制度発足
		2.2	須坂町第1回慰霊祭開催
		4.1	国家総動員法公布
14	1939	7.8	国民徴用令交付、軍需産業への強制動員
15	1940	4	米、みそ、しょうゆ、塩など切符制となる
		9.27.	日独伊三国軍事同盟締結
		10.12	大政翼賛会発会式
		11.10	紀元 2600 年記念式典
		12.5	大政翼賛会須坂町支部結成
16	1941		満州に上高井郷建設のため先遣隊出発
		8.30	金属回収令公布
		12.8	米英両国に宣戦布告
17	1942	2.15	シンガポールを占領
		2	衣料品切符制となる
18	1943	2.1	ガダルカナル島から撤退、戦死者等 2 万 5 千人
		12.1	第一回学徒兵入隊
		12.24	徴兵年齢を一年引き下げ 19 歳で兵役編入
19	1944	7.7	サイパン島の日本軍全滅
		8.10	グアム島守備隊約 1 万 8 千人全滅
		9.18	男子満 18 歳以上兵役決定
		11.11	松代大本営着工
20	1945	2	臥龍山と鎌田山に洞窟の掘削工事が行われる
		6.28	森上国民学校が軍隊の宿舎となる
		8.6	広島に原子爆弾投下
		8.8	ソ連が日本に宣戦布告
		8.9	長崎に原子爆弾投下
		8.14	ポツダム宣言受託
		8.15	天皇、戦争終結の詔書を放送

※ゴシック体は須坂地域に関する出来事

もんじょ紹介 No.28

発行 2023(令和 5)年 7 月
 須坂市文書館
 須坂市大字須坂 812 番地 2
 (旧上高井郡役所内)
 TEL 026-285-9041
 FAX 026-285-9175